

# 「話したい」・「聞きたい」・「考えたい」を引き出す授業の実現 ～思考ツールを活用した系統的・教科横断的な授業改善を通して～

横浜国立大学教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻  
海保 岳

## 1. A校の授業研究の実態と課題

過去5年間の全国学力・学習状況調査によると、協働的な学びを通して課題解決をする力や、主体的に学びに向かう力など、「主体的・対話的で深い学び」の基礎となる資質・能力が継続的に全国平均を下回り続けていることがわかる。学区を同一とする小学校（B 小学校）でも同様の傾向が見られ、これは地域的課題であるとも言える。現状の改善のため、定期テスト前の補習、長期休業中の学習会、家庭学習用の課題の提供、個別指導等の努力を重ねてきたが、この点については大きな改善は見られていない。平成26年度より、A校とB校は系統的・教科等横断的な授業改善を目的として、小中共同研究会「学びづくり」を発足させた。しかし、小・中学校が相互に授業参観をするのみで、課題の解決に向けた具体的な手立ては講じることはできていない。

## 2. 先行研究

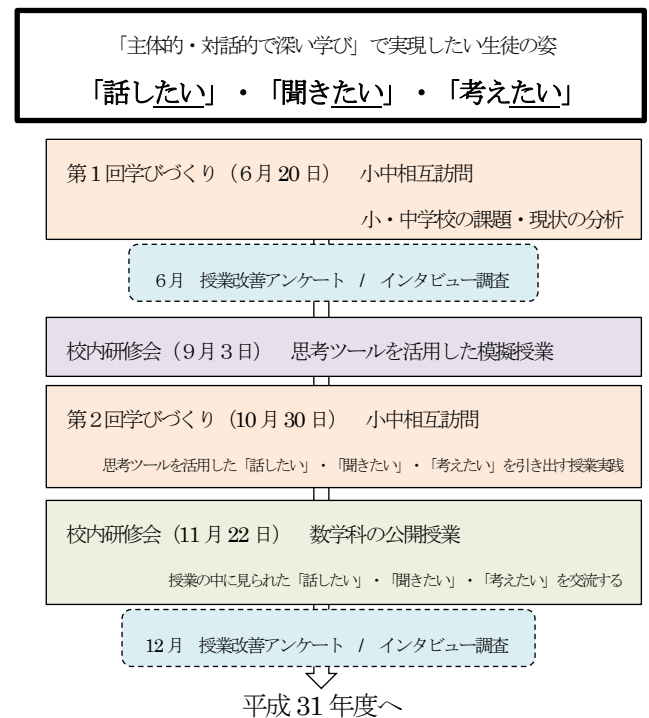
国立教育政策研究所の全国学力・学習状況調査報告書によると、「日常的に探究的な学習に取り組んでいる生徒ほど正答率が高い」という結果が見られる。『授業を磨く』（田村学 2015）に記された思考ツールを活用した授業実践から、「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた知見を得ることができる。

## 3. 研究の目的

系統的・教科等横断的な「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、小・中学校が連携して思考ツールを活用した課題解決型の授業を実践し、その効果を検証する。また、「主体的・対話的で深い学び」が実現された生徒の姿を具体的にイメージできるようにするため、「話したい」・「聞きたい」・「考えたい」という3つの言葉をキーワードとして設定する。

## 4. 課題解決方法

校内研修会・研究会で「主体的・対話的で深い学び」の理念を共有する。また、「学びづくり」を小中連携の核として、系統的・教科等横断的な授業実践について交流する。



## 5. 結果と考察

課題解決の方法を通して、「主体的・対話的で深い学び」のイメージが小・中学校で共有され、系統的・教科等横断的な授業改善がなされたことが示唆された。なお、本年度は中学校を中心とした実践だったため、平成31年度以降は小学校に研究を拡大していく。

## 6. 参考文献

- ・国立教育政策研究所（平成26年度～平成30年度）全国学力・学習状況調査報告書
- ・田村学・黒上晴夫（2013）「思考ツールの授業」
- ・田村学・黒上晴夫（2014）『中学校 思考ツール』